



まちの誇りと魅力づくり

鏡石町長

木賊正男

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆様には、令和6年の新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、鏡石町健康福祉センター（ほがらかん）の開館、「牧場の朝」歌碑建立40周年のつどいの開催、東京かがみいし会設立40周年記念式典など新たな始まりと歴史が重なる記念すべき一年になりました。

さて、本年の町政運営につきましては、3年目を迎える「鏡石町第6次総合計画」を基本として、まちづくりの方向性をしっかりと捉え、新たなことへ更なる挑戦をしていきたいと考えており、町民の皆様が暮らし続けることができるまちづくりを進めてまいります。

特に、現在対応を求められているのが、持続可能な社会の実現と人口減少や空家対策でありますので、健康福祉センターを活用し、子育てや健康長寿の政策に積極的に取り組むと共に公共施設の集約化を進め、行政のスリム化に努めてまいります。空家対策については、空家対策推進条例の制定や市街化調整区域内で一定の条件を満たす集落には、一般住宅の建築を可能とする地区計画の導入を図るなど既存市街地の活性化に取り組んでまいります。

さらに、国が進める阿武隈川緊急治水対策プロジェクトにつきましては、これから本格的な遊水地整備が進むことから、高台移転を含めた住宅移転を支援し、大きな影響を受ける成田地区のコミュニティ維持に取り組んでまいります。

これら施策の視点は、鏡石町の誇りと魅力あふれる「鏡石」を創ることであり、「郷土愛」を育むまちづくりが大事ではないかと思えます。その資源が、唱歌「牧場の朝」に歌われた緑豊かな自然環境と優れた立地条件だと考えております。

町民が毎日を元気に過ごし、鏡石町を「マイタウン」と呼べるような安全で安心して暮らせる「誇りと自慢の鏡石町」を次の世代に創りつないでまいります。

結びに、町民各位並びに関係機関の皆様には、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、年頭のごあいさつといたします。



町民に身近な議会づくり

鏡石町議会議長 角田真美

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆様には、希望に満ちた新春をお迎えのことと謹んでお慶び申し上げます。

また、日頃から町議会に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は、昨年5月8日より5類感染症に移行し、3年ぶりにマスク無しの日常生活が戻りましたが、多くの感染対策の効果は、未だに完遂しない状況にあります。

こうした中、昨年は、わが町にとって記念すべき年となりました。10月には、鏡石町健康福祉センター「ほがらかん」が開館し、錦秋のなか鏡石町立第一小学校と第二小学校の創立150周年記念式典が、それぞれ盛大に開催されました。11月には、東京かがみいし会総会・設立40周年記念式典が、東京都港区白金台の「八芳園」で開催され、次の50周年に向けて会員相互の結束を誓い合いました。

かごしま国体においては、陸上競技少年男子B3000メートルで、増子陽太選手（学法石川高校1年）が、高校1年歴代2位の好記録で見事優勝を果たし、ウエイトリフティング女子59kg級では、遠藤梨李選手（東京国際大学4年）が2年連続で2位となる素晴らしい成績を収めました。わが町出身の若者が大活躍し、町民に勇気と感動を与えてくれたことは、記憶に新しいところです。

令和6年も、鏡石町にとって明るい話題が続くことを、大いに期待するものであります。鏡石町議会におきましては、昨年8月に改選が行われ、6名の新しい議員が加わり新体制でスタートしました。人口減少や少子化対策、農業・商工業の後継者対策、成田遊水地整備など山積している課題解決のため、全議員決意を新たにしています。町民の皆様は、議会活動をより身近に感じていただくために、地方政治の環境づくりにも取り組んでまいります。一層のご理解とご協力をお願いし、忌憚のないご意見とご叱声をお聞かせ頂ければ幸いに存じます。

結びに、町民の皆様のご健康とご多幸を祈念し、年頭のごあいさつといたします。